

令和4年度 田原市市民意識調査 結果

1 調査の概要

■調査目的

市の行う取り組みに対する満足度や重要度、市民意識の把握を行い、調査項目の多角的な分析を行うことで、市民意識の市政への反映と総合計画の着実な推進を図ることを目的として実施しました。

■調査期間 令和4年7月1日～7月22日

■調査対象 住民基本台帳に記載された18歳以上の市民3,500人を無作為に抽出

■調査方法 郵送で配布、紙またはWebで回答

■回収状況 有効回収数 1,301通（回収率37.2%）

【参考】（R1:39.2%、H28:40.5%、H25:36.7%）

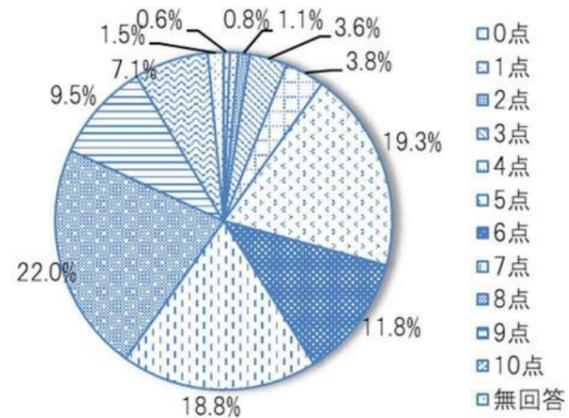
2 幸福感について

問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると何点ですか。

■幸福感

○平均点は、6.71点であり、前回調査（6.95点）と比べ0.24ポイント低くなっています。

【参考】（R1:6.95点、H28:6.84点、H25:6.93点）



3 田原市の住みよさについて

問 田原市は住みよいまちだと思いますか。

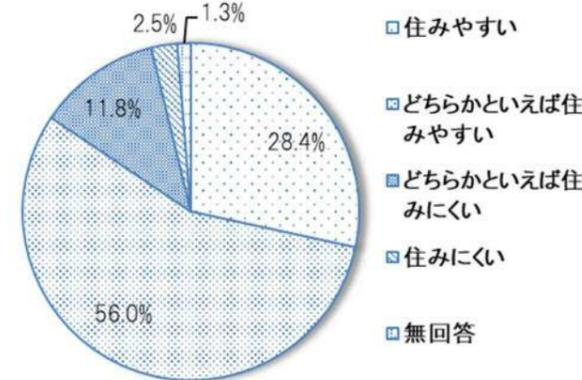
問 ここ数年の間に、住み心地に変化がありましたか。

■住み心地

○「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した人は84.4%で、前回調査と比べ1.1ポイント高くなっています。また、「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と回答した人は、14.3%となっています。

【参考】

「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合（R1:83.3%、H28:84.0%、H25:86.9%）

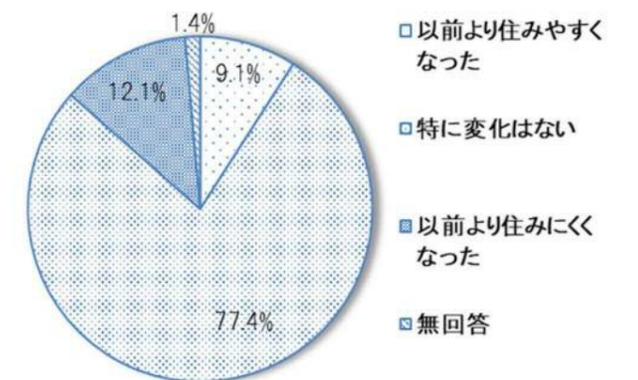


■住み心地の変化

○「特に変化はない」と回答した人が77.4%と最も高く、次いで「以前より住みにくくなった」が12.1%、「以前より住みやすくなった」が9.1%となっています。

【参考】

「以前より住みやすくなった」と回答した人の割合（R1:10.8%、H28:8.1%、H25:9.0%）



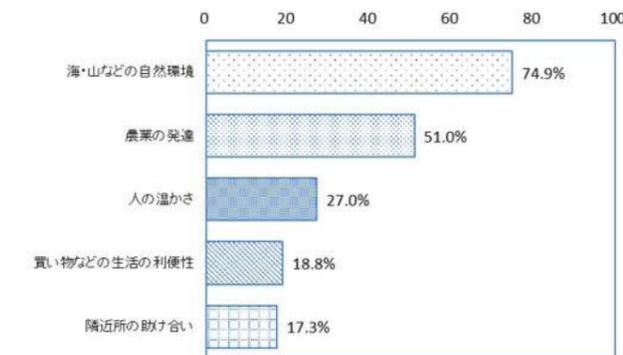
問 田原市が優れていると感じることは何ですか。

問 田原市に欠けていると感じることは何ですか。

■優れているところ

○「海・山などの自然環境」の割合が74.9%と最も高く、次いで「農業の発達」「人の温かさ」の順になっています。

○前回と比べても、傾向に大きな差異は見られません。

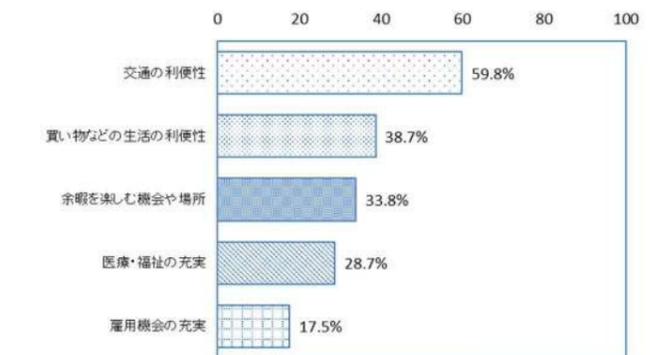


《上位5項目を表示》

■欠けているところ

○「交通の利便性」の割合が59.8%と最も高く、次いで「買い物などの生活の利便性」「余暇を楽しむ機会や場所」の順になっています。

○前回と比べても、傾向に大きな差異は見られません。



《上位5項目を表示》

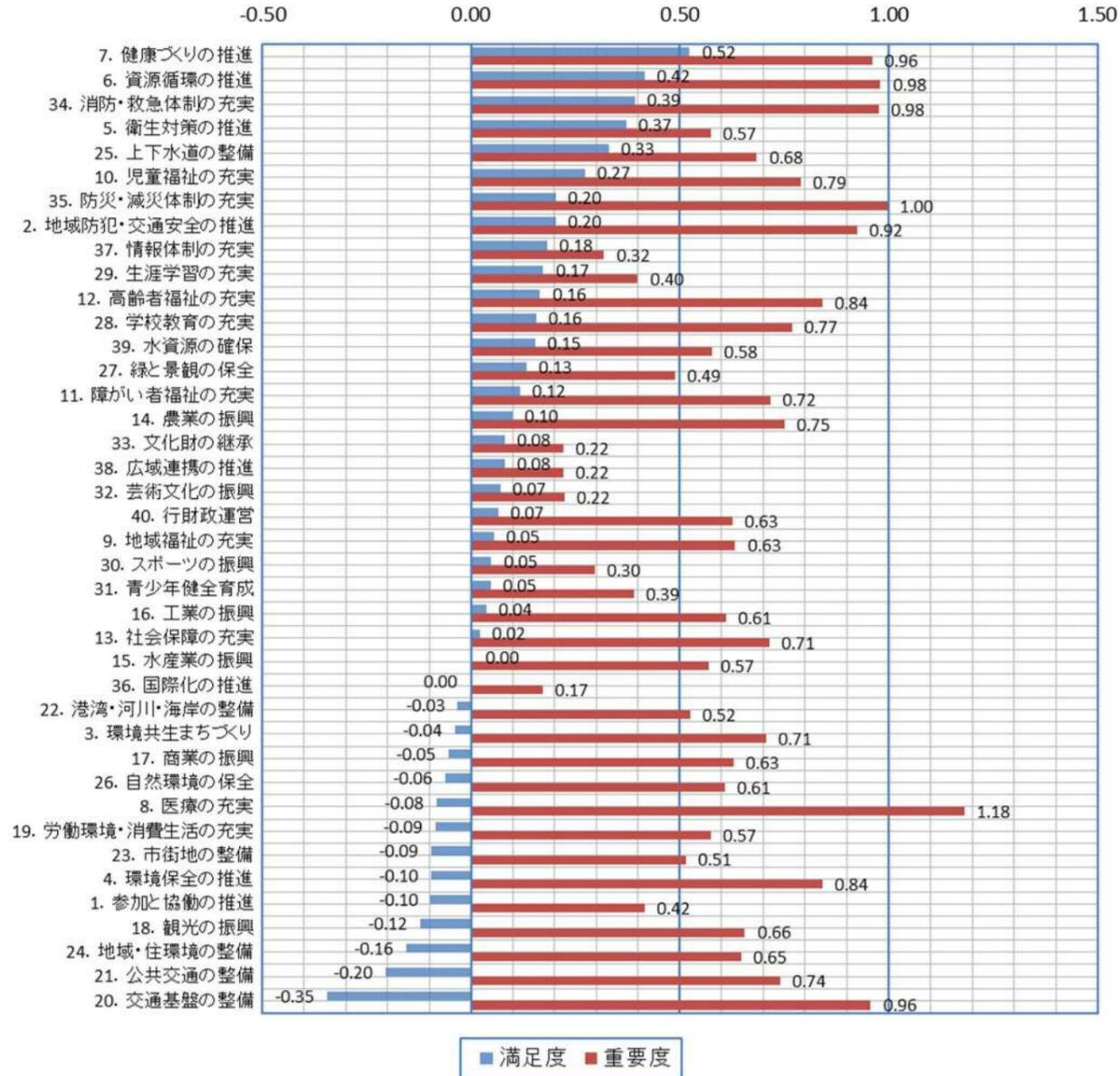
4 各分野での市の取り組みについて

問 現状の田原市の取り組みに対しどの程度満足していますか。【満足度】
また、それぞれの取り組みについて、重要度はどの程度だと思いますか。【重要度】

○満足度と重要度を下表のような配分で点数化し、その点数の合計値を、無回答を除いた各設問の回答総数で割り得点化しました。

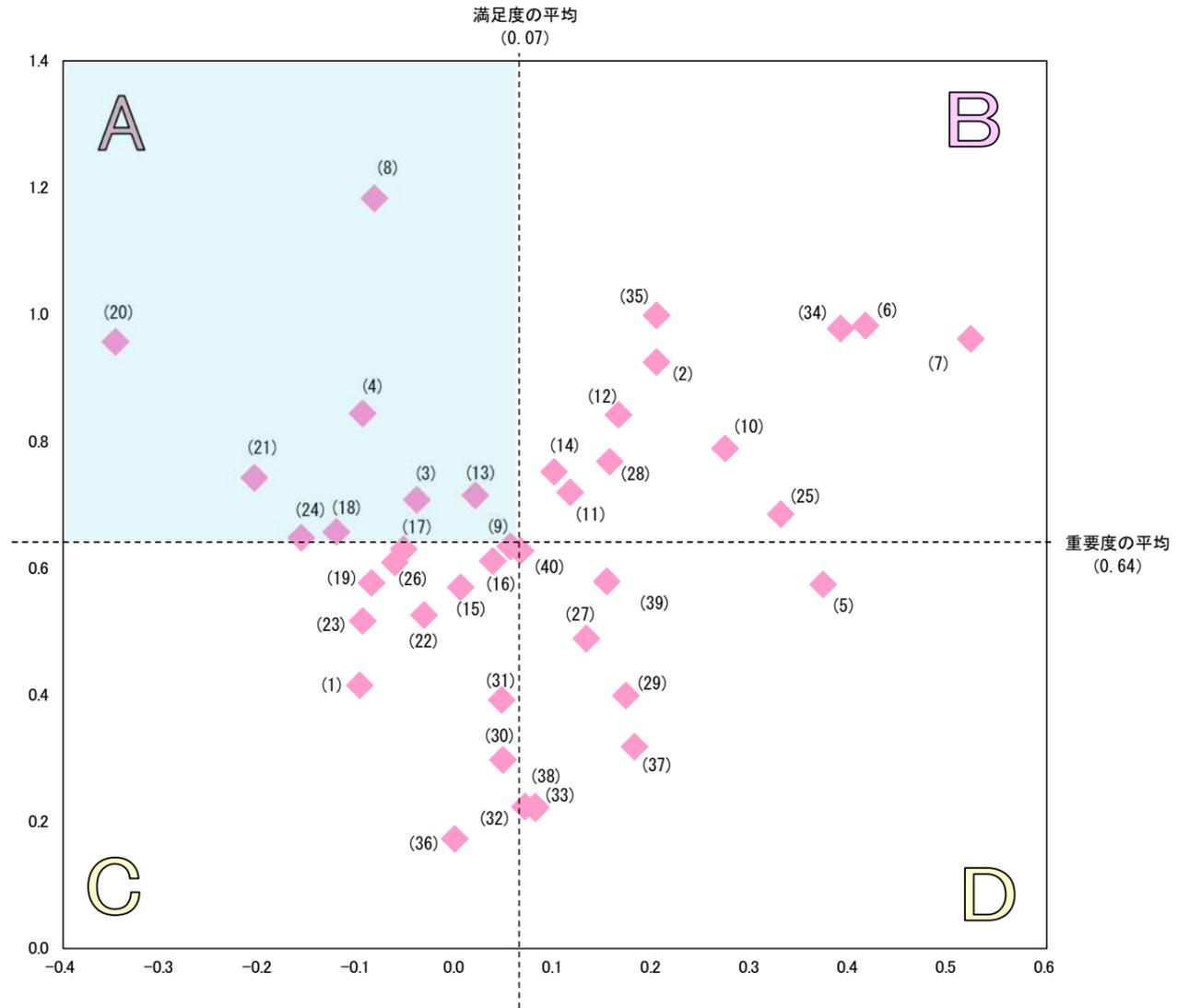
満足 非常に重要	やや満足 重要	普通	やや不満 あまり重要でない	不満 重要でない
2点	1点	0点	-1点	-2点

(上段：満足度、下段：重要度)



■ポートフォリオ分析

表中のAの部分は重要度が高く満足度が低いため、早期に改善すべき課題と言えます。Bの部分は重要度・満足度ともに高いため、引き続き現状の施策を実施すべきと考えます。Cの部分は重要度・満足度ともに低いため、実施方法の変更などの検討が必要と考えます。Dの部分は満足度は高いが重要度が低く、これまでの施策が充実した結果、満足度が高くなったものが含まれていると考えられるため、今後も動向を注視すべきと考えます。



■満足度と重要度から分析判断できる優先課題（項目番号順）

- | | | | |
|--------------|-------------|-------------|---------------|
| 3. 環境共生まちづくり | 4. 環境保全の推進 | 8. 医療の充実 | 13. 社会保障の充実 |
| 18. 観光の振興 | 20. 交通基盤の整備 | 21. 公共交通の整備 | 24. 地域・住環境の整備 |

次期田原市総合計画 策定に向けた
まちづくりに対する市民意見について

目次

1 WEB アンケート結果.....	2
(1)実施概要.....	2
(2)調査結果.....	2
2 意見聴取ボードについて	16
(1)実施概要.....	16
(2)主な意見	17
3 まとめ.....	21

令和5年3月

田原市 企画課

1 WEB アンケート結果

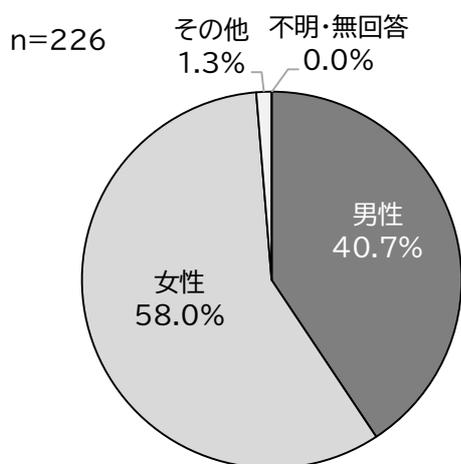
(1)実施概要

区分	内容
実施期間	令和5年1月13日～2月3日まで
実施方法	WEBアンケートにつながるQRコードを記載したポスターを、市内の高等学校と専門学校、計4箇所に掲示して実施。
回収数	226件

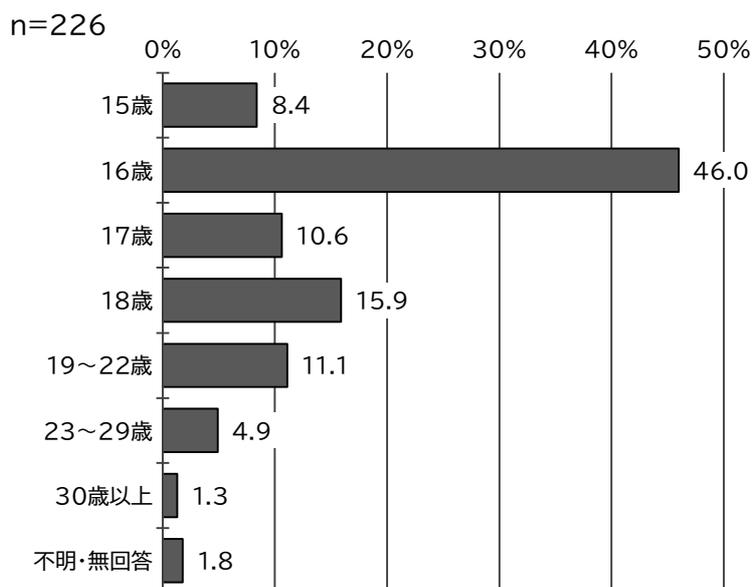
- 図表中の「n数 (number of case)」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（いくつでも○をつけるものなど）は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。

(2)調査結果

問1 回答者の性別(単数回答)

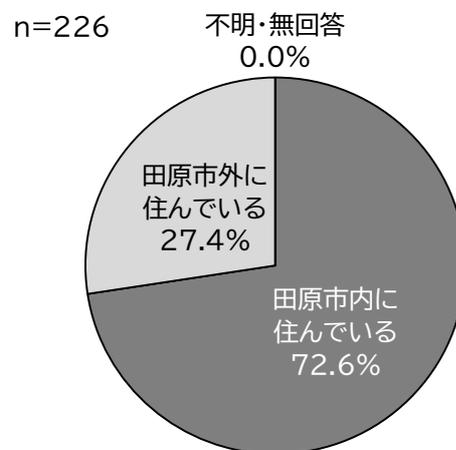


問2 回答者の年齢(数量回答)



問3 回答者の居住地(単数回答)

「田原市内に住んでいる」が72.6%と、「田原市外に住んでいる」の27.4%を上回っています。

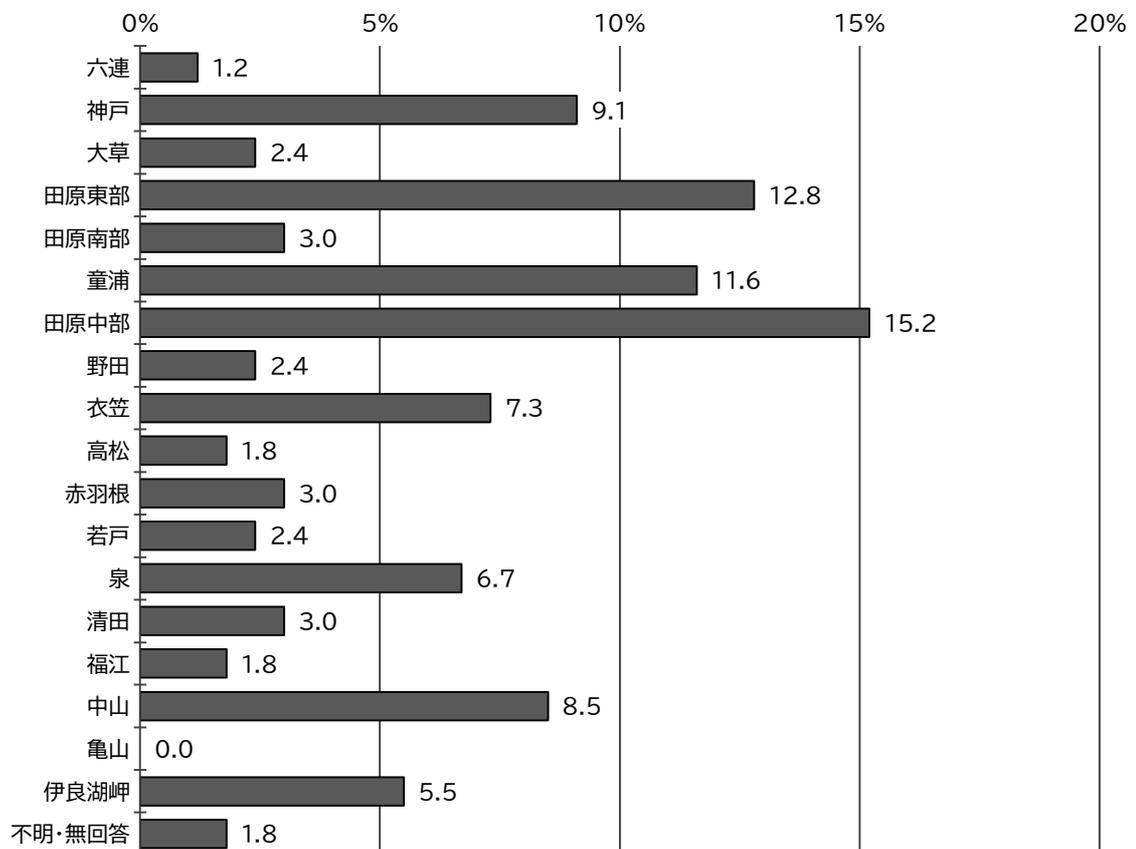


【問3で「1 田原市内に住んでいる」を選んだ方のみ】

問3-1 お住まいの地域(小学校区)(単数回答)

「田原中部」が15.2%と最も多く、次いで「田原東部」が12.8%、「童浦」が11.6%となっています。

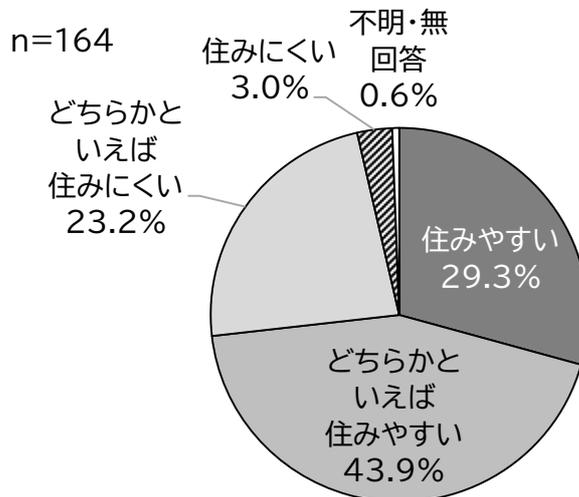
n=164



【問3で「1 田原市内に住んでいる」を選んだ方のみ】

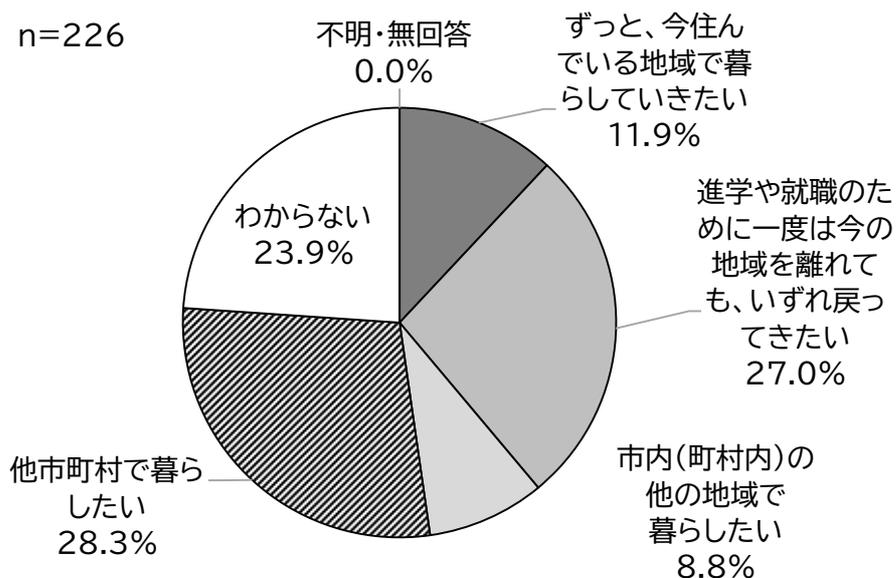
問4 田原市の住みやすさ(単数回答)

「どちらかといえば住みやすい」が43.9%と最も多く、次いで「住みやすい」が29.3%、「どちらかといえば住みにくい」が23.2%となっています。『住みやすい』（「どちらかといえば住みやすい」と「住みやすい」の合算）が73.2%となっています。



問5 将来、定住する場所について、現在の考えを教えてください。(単数回答)

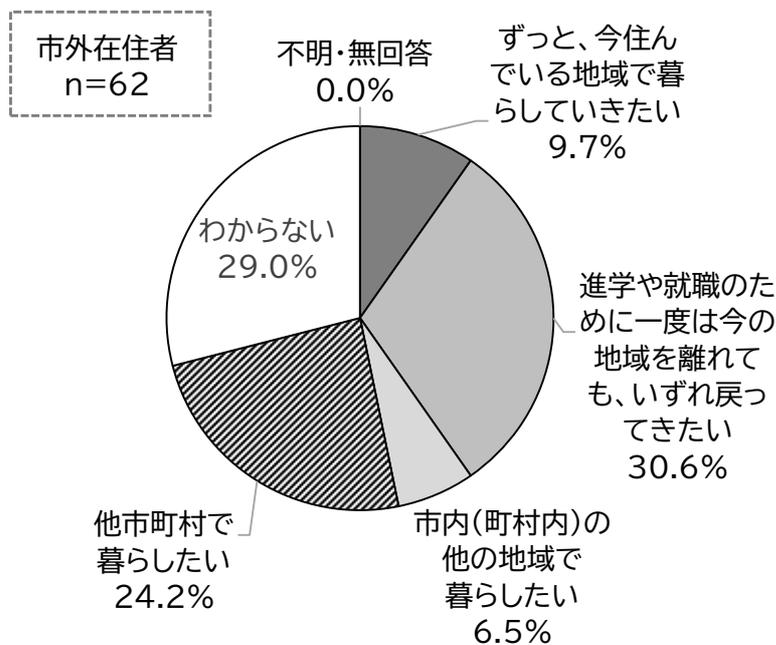
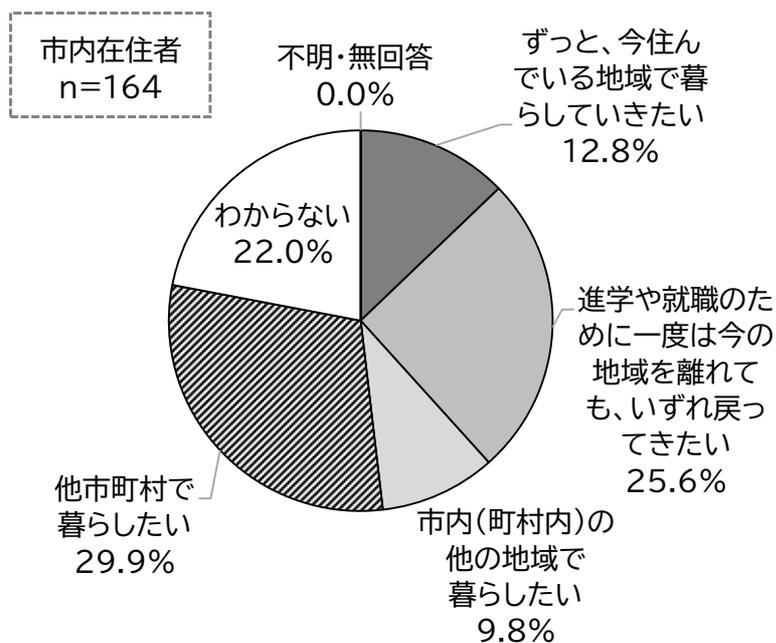
「他市町村で暮らしたい」が28.3%と最も多く、次いで「進学や就職のために一度は今の地域を離れても、いずれ戻ってきたい」が27.0%、「わからない」が23.9%となっています。



<居住地域別クロス集計>

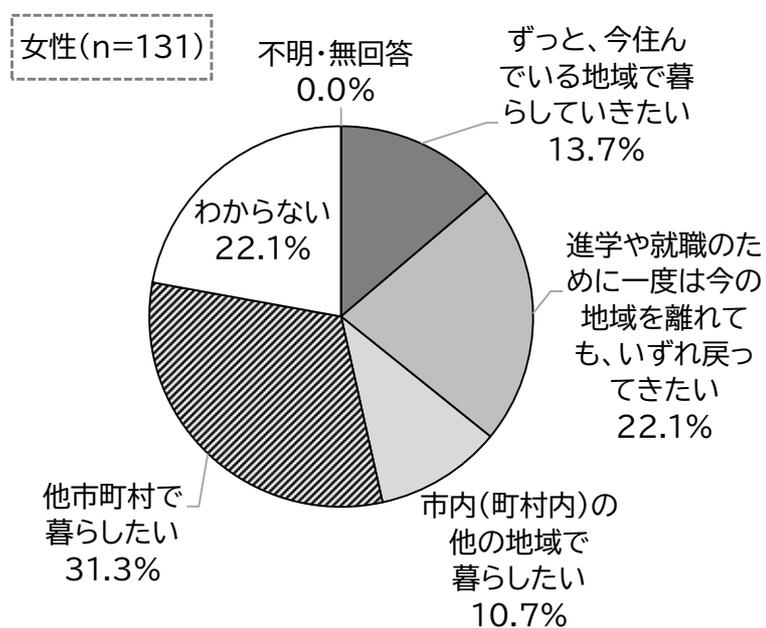
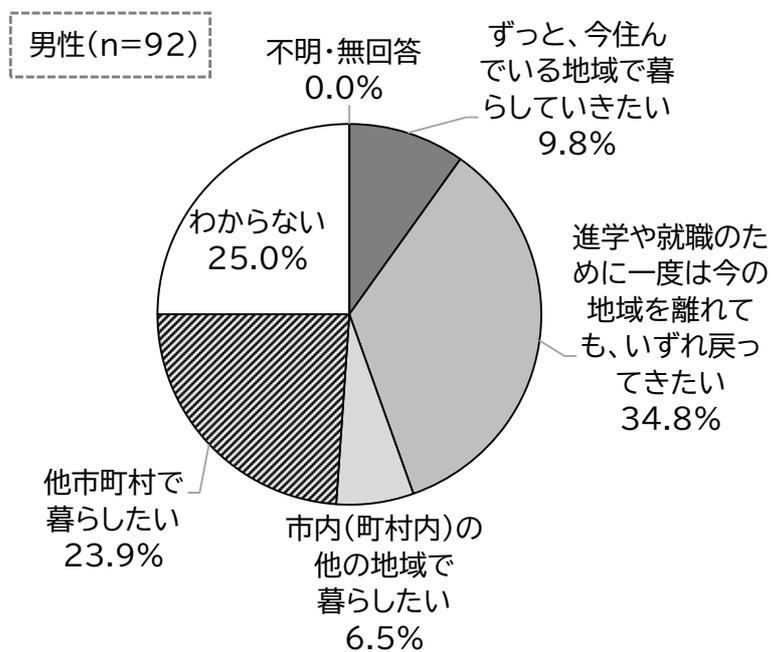
居住地別にみると、市内在住者の方が「ずっと、今住んでいる地域で暮らしていきたい」がやや高くなっています。

田原市在住者のうち、「ずっと、今住んでいる地域で暮らしていきたい」「進学や就職のために一度は今の地域を離れても、いずれ戻ってきたい」「市内の他の地域で暮らしたい」を合わせた、将来田原市で暮らしたいとする割合は48.2%となっています。



<男女別クロス集計>

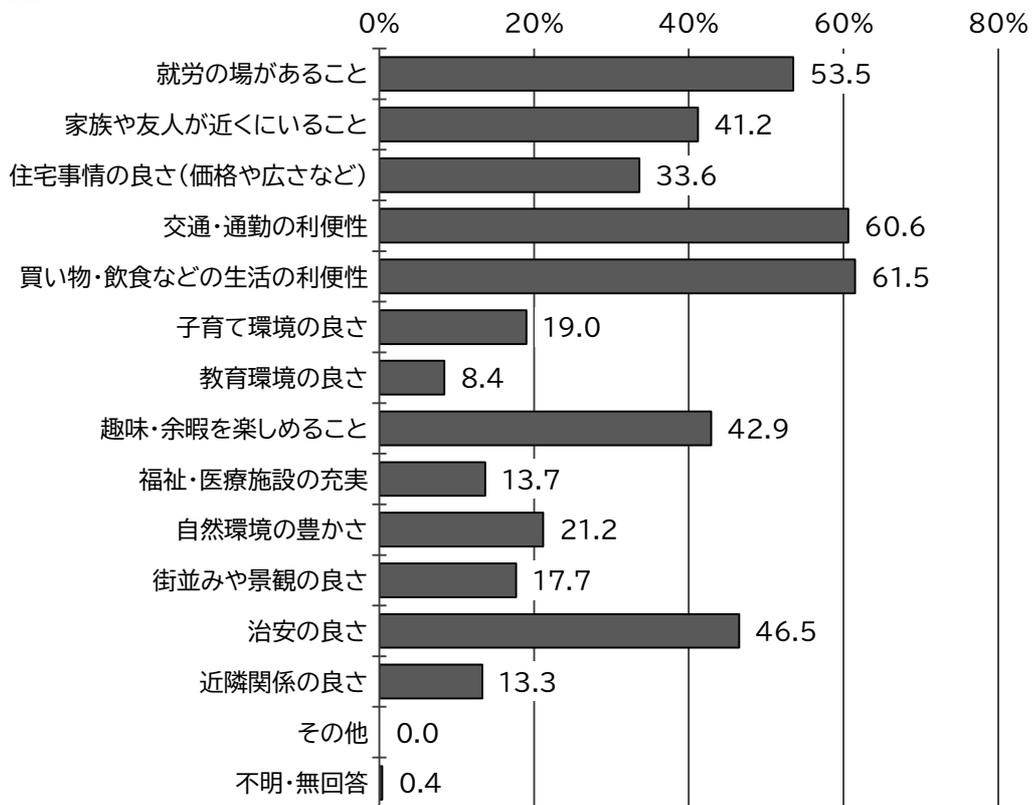
男女別にみると、女性の方が「他市町村で暮らしたい」が高くなっています。



問6 あなたが将来、定住する場所に求めたいものは何ですか。(複数回答)

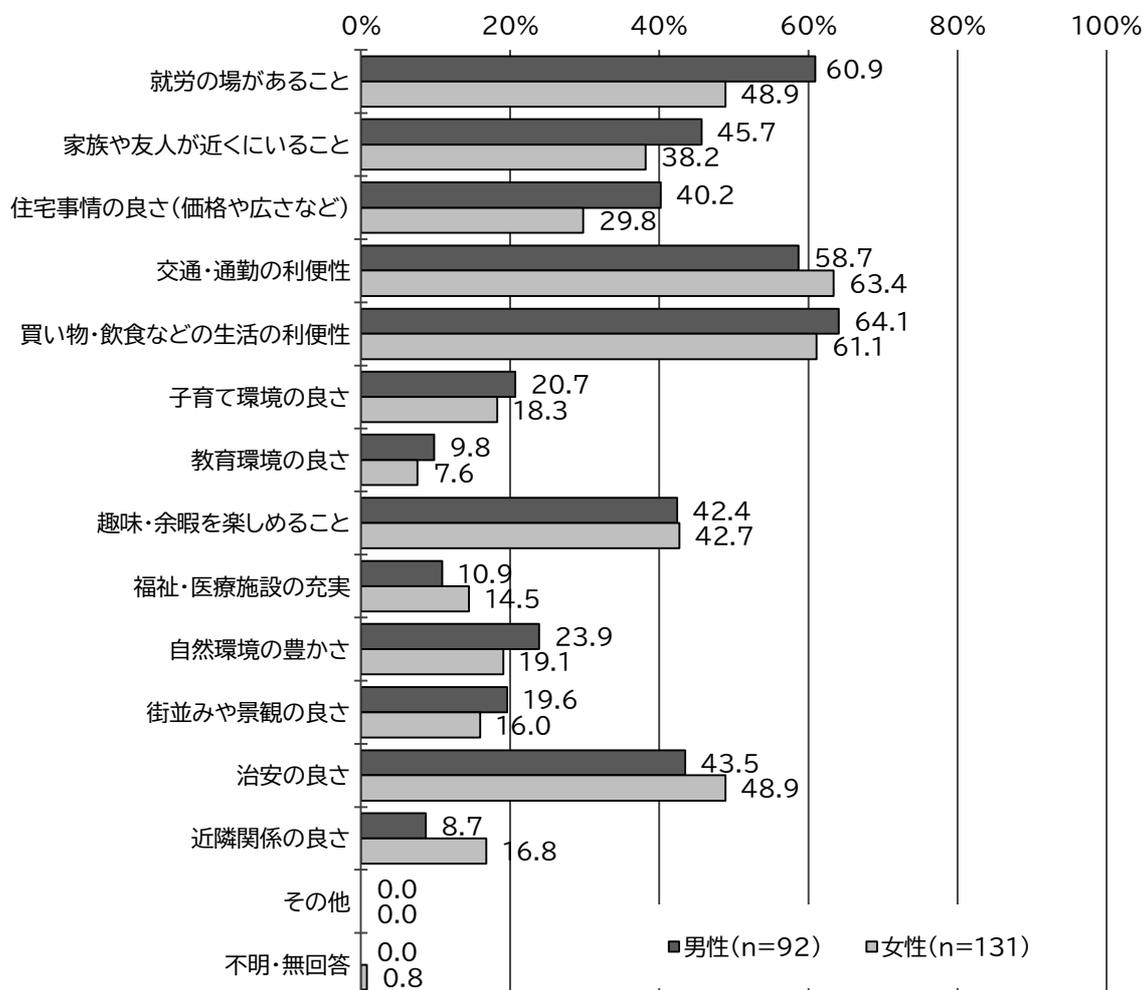
「買い物・飲食などの生活の利便性」が 61.5%と最も多く、次いで「交通・通勤の利便性」が 60.6%、「就労の場があること」が 53.5%となっています。

n=226



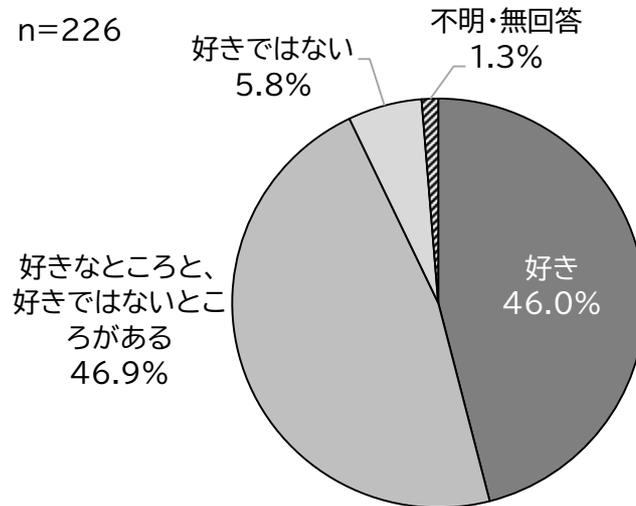
<男女別クロス集計>

男女別にみると、男性の方が「就労の場があること」「家族や友人が近くにいること」「住宅事情の良さ（価格や広さなど）」などが高く、女性の方が「交通・通勤の利便性」「治安の良さ」などが高くなっています。



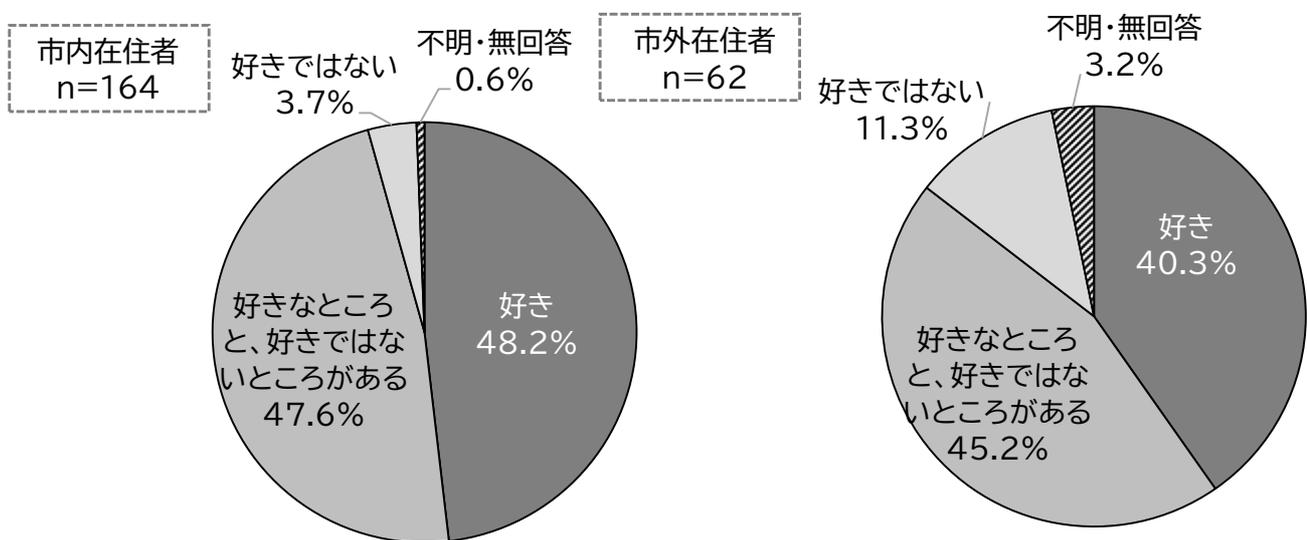
問7 あなたは田原市が好きですか。(単数回答)

「好きなところと、好きではないところがある」が 46.9%と最も多く、次いで「好き」が 46.0%、「好きではない」が 5.8%となっています。



<居住地域別クロス集計>

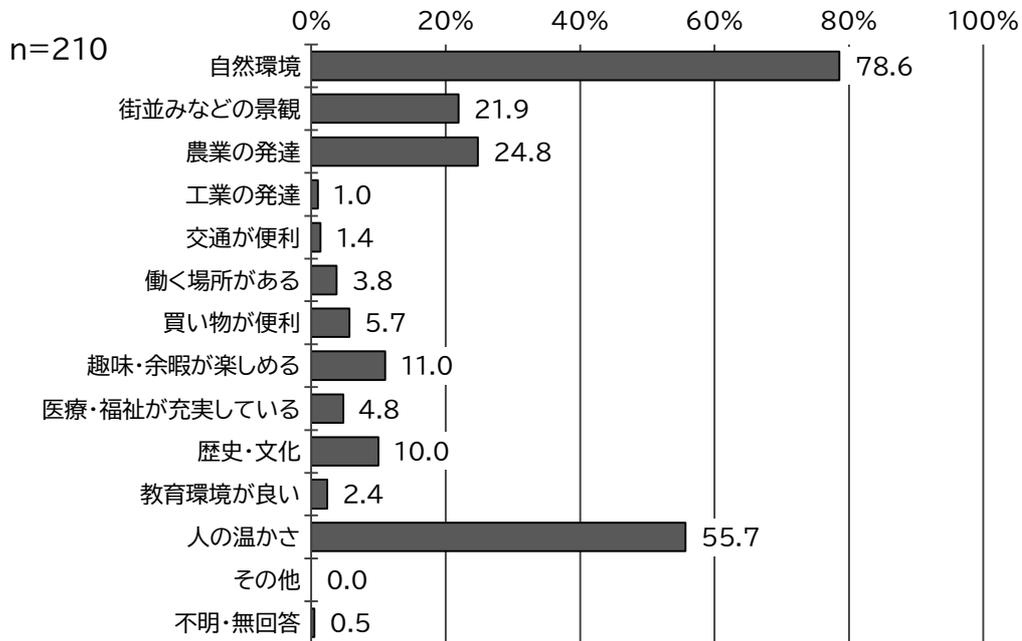
居住地別にみると、市内在住者の方が「好き」が高くなっています。



【問7で「1 好き」または「2 好きなところと、好きではないところがある」を選んだ方のみ】

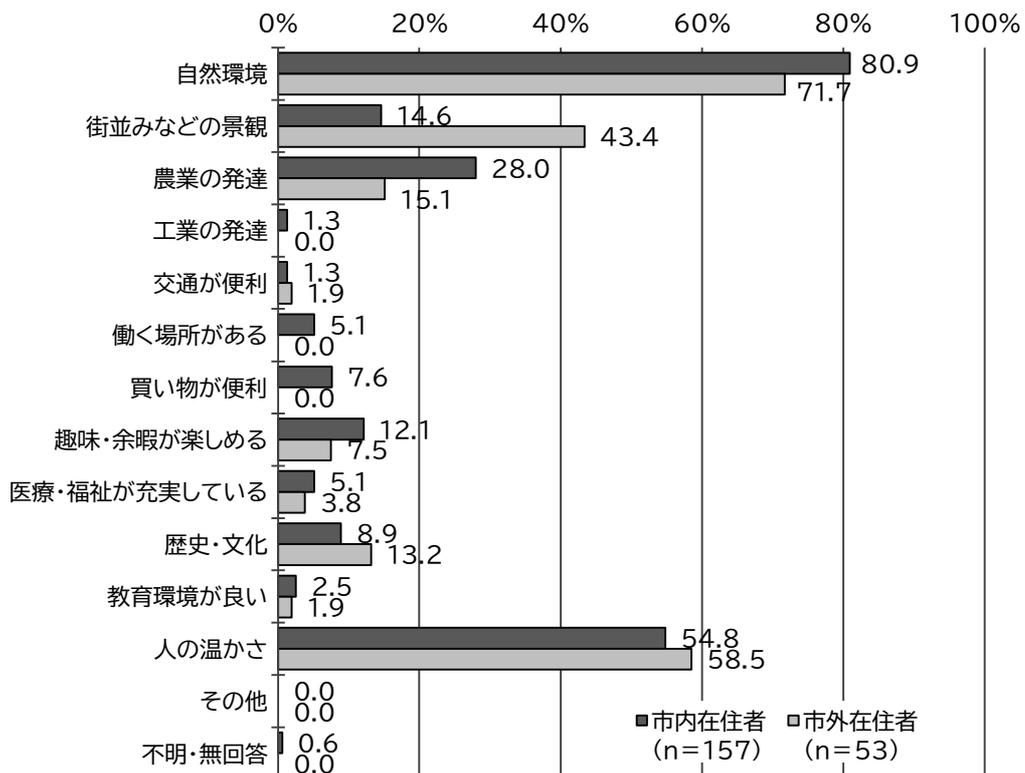
問7-1 田原市の好きなところはどこですか。(複数回答)

「自然環境」が78.6%と最も多く、次いで「人の温かさ」が55.7%となっています。



<居住地域別クロス集計>

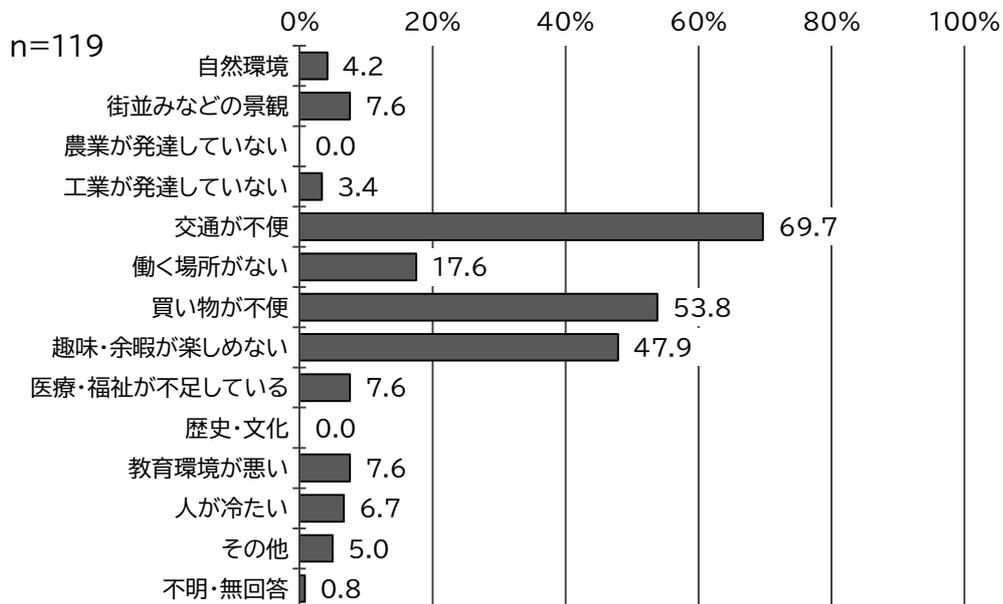
居住地別にみると、市内在住者の方が「自然環境」「農業の発達」などが高くなっており、市外在住者では「街並みなどの景観」などが高くなっています。



【問7で「2 好きなところと、好きではないところがある」または「3 好きではない」を選んだ方のみ】

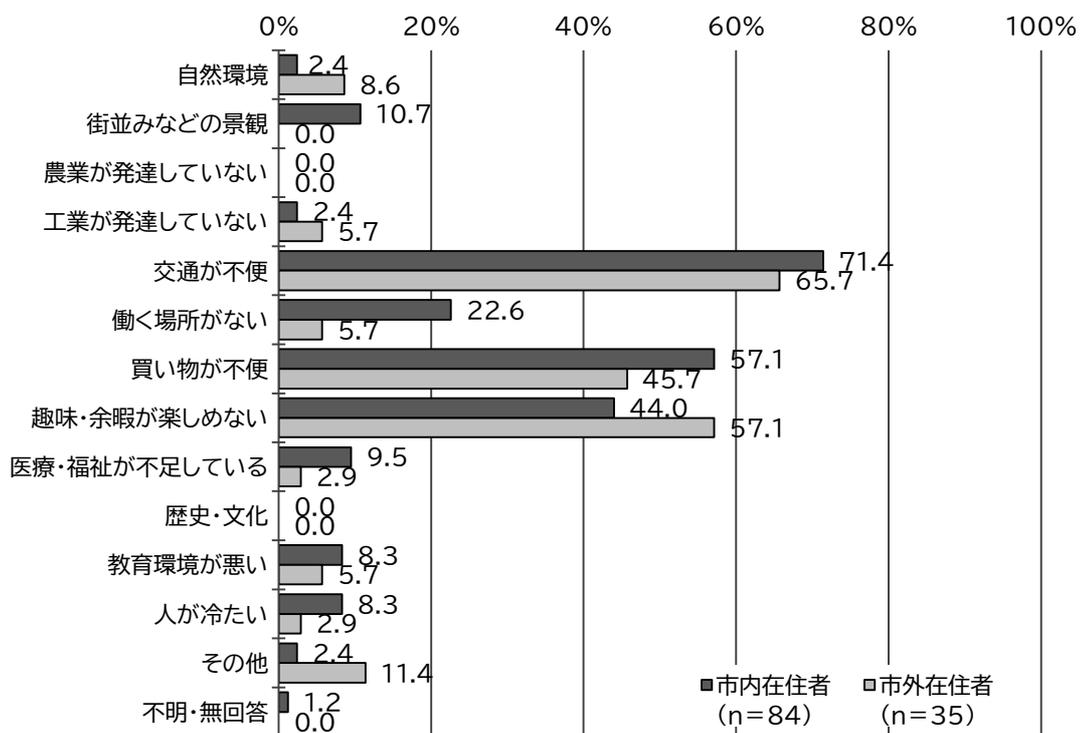
問7-2 田原市の好きではないところはどこですか。(複数回答)

「交通が不便」が 69.7%と最も多く、次いで「買い物が不便」が 53.8%、「趣味・余暇が楽しめない」が 47.9%となっています。



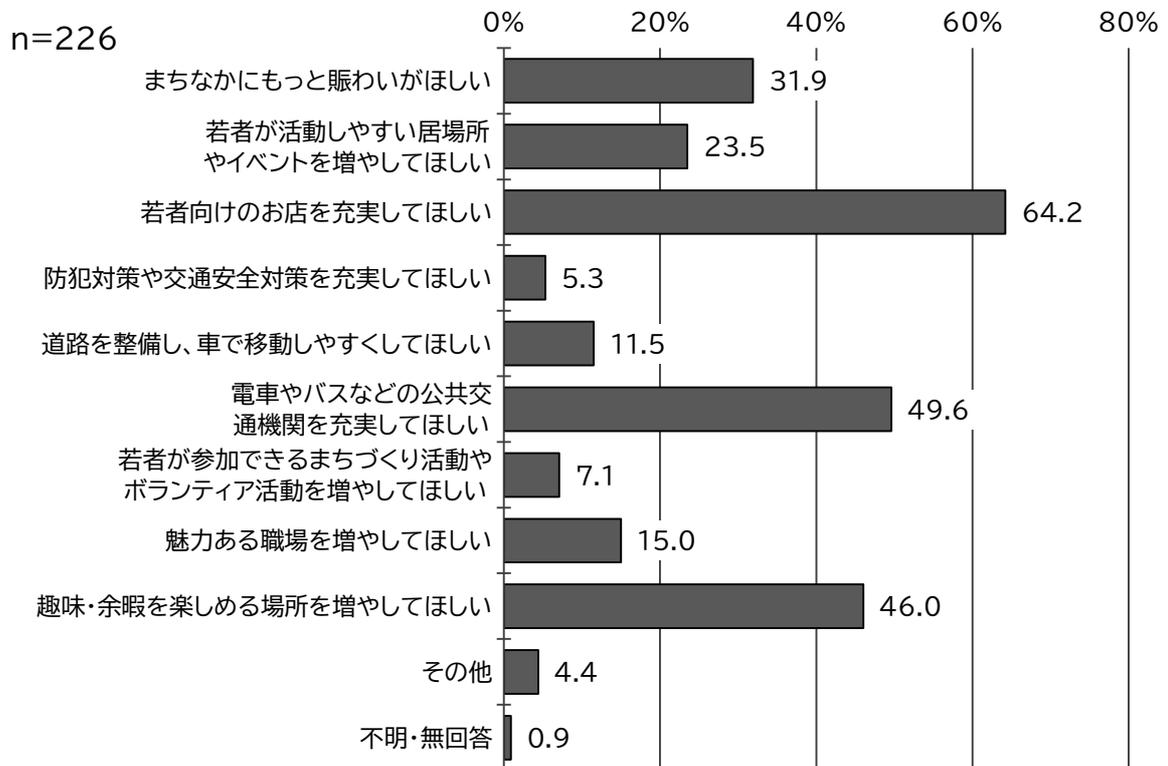
<居住地域別クロス集計>

居住地別にみると、市内在住者の方が「交通が不便」「働く場所がない」「買い物が不便」などが高くなっており、市外在住者では「趣味・余暇が楽しめない」などが高くなっています。



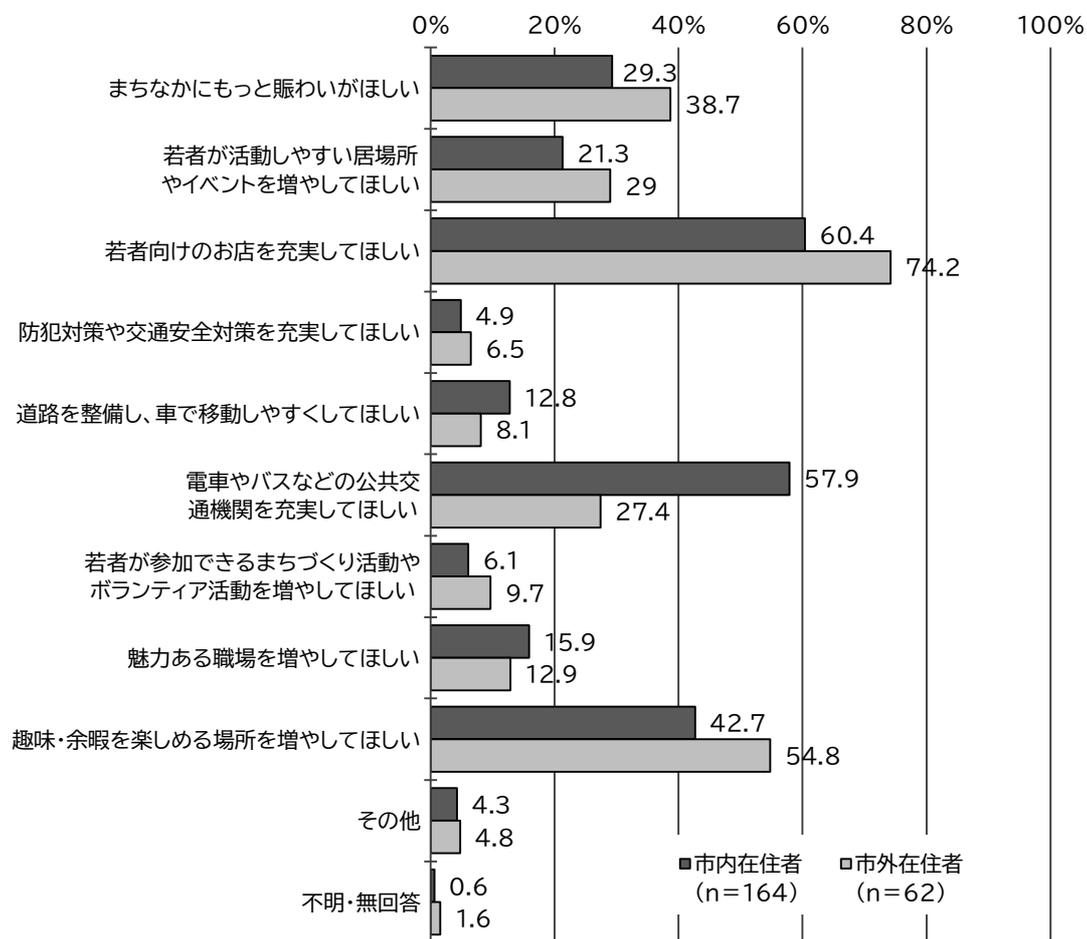
問8 田原市を若者にとってより良いまちにするためにしてほしいことは何ですか。(複数回答)

「若者向けのお店を充実してほしい」が64.2%と最も多く、次いで「電車やバスなどの公共交通機関を充実してほしい」が49.6%、「趣味・余暇を楽しめる場所を増やしてほしい」が46.0%となっています。



<居住地域別クロス集計>

居住地別にみると、市内在住者の方が「電車やバスなどの公共交通機関を充実してほしい」などが高く、大きな差がみられます。



問9 今後の田原市がもっと良いまちになるためのアイデアや意見をお書きください(自由回答)

■意見の分類一覧

区分	ご意見(抜粋)
飲食・衣類・雑貨等、買い物できる場がほしい (18件)	<ul style="list-style-type: none"> ・チェーンの飲食店の数を増やす。 ・学校の帰りに気軽に寄れる飲食店がもう少しあるとよい。 ・商業施設やレジャー施設を増やして賑わいをよくする。 ・色々ジャンルの違うお店を増やした方がいいと思います。 他
公共交通 (14件)	<ul style="list-style-type: none"> ・バスが高いのももう少し安くして欲しいです！お店があまりないと、電車が渥美まで通ってないので不便です…。 ・交通機関が充実してなくて、お金がかかったり、車がないと移動できないのがよくない。 ・田原はすごい好きなんですけど公共交通機関の値段は高いので若者が遊びに行くのもすごくお金がかかる。車がないとどこにも行けないという状況を早くどうにかして欲しい。 他
レジャー・遊び場がほしい (11件)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場をたくさん設ける。 ・子どもが遊びたいと思える場所をつくる。 ・若者の世代の人数を増やすために若者の遊べる場を設ける。 他
住環境 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を処理してほしいのと、全体的に街灯を増やしてほしいです。 ・個人的に思うことなのですが、道が複雑なところが多くなってしまいました。田原出身ではないので、初めてここに来た時、目的地まで時間がかかりました。 ・田原市の隅々まで夜も明るくしてほしい。街灯など。 他
まちづくり全体への希望 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・若者ウケを狙ってワイワイ騒がないで欲しい。田舎は田舎らしく綺麗な場所であればいいんです。都会ぶらないようにだけ気をつけてね。 ・田原はとてもいい街です！田原はとても住みやすいです！ ・田原市は住宅がぎゅうぎゅうに詰まった感じがするところが多いと思います。散歩したり、友達と集まれるような自然がいっぱいの広々とした公園や広場があるともっと街全体が賑わうと思います。私は大きなビルや工業とかより、農業など自然と一体化するという方向で街づくりを進めてほしいと思います。 他
観光 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設をたくさん増やす。 ・田原市のことは大好きで、色々なイベントが素晴らしいと思います。菜の花畑は少し高いと思います。500円なら菜の花摘みなどをサービスにすると良いと思います。 ・豊橋にはない娯楽施設をつくったほうがいいと思う。温泉や大きな公園など。あと、バスが15分に1回とかになったらもっと交通の便が良くなって人が来ると思う。
シティプロモーション (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・映えるスポットをどんどんつくって、YouTubeやTikTokで配信したらいいと思います。オタクの人の中で話題になるものだといいですね。 ・若い人たちが田原市に魅力を感じられるようなまちにしてほしい。 ・田原祭りなどの伝統や文化をもっと市外県外へと発信していく。

区分	ご意見(抜粋)
公園 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・赤羽根の赤東運動広場をキレイにしてほしい。 ・赤東運動広場をもっと利用しやすくして欲しい。遊具が少なかったりボロボロだったり。 ・白谷海浜公園のタータンを張り替えてほしいです。
市民活動 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことを企画してみる。ボランティア活動を増やして地域のふれあいができるようにする。 ・これからも色々な活動に参加させていただきたいです。
防災 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフで少しでも犠牲を減らすために具体的に何を持ってどこに行けばいいのか、地域別に最悪の場合被害はどれくらいなのかということをもっと市民に伝えた方がいいと思います。海拔が低いところが多い上に高齢者が多いところが課題だと思います。

※意見のうち、まちづくりと関係が薄いものについては除外しています。

2 意見聴取ボードについて

(1)実施概要

区分	内容
設置期間	令和5年1月13日～2月5日まで
設置場所	市内5箇所（三河田原駅前、田原文化会館、親子交流館（すくっと）、渥美農村環境改善センター、赤羽根市民センター）
実施方法	意見聴取ボードとふせん、筆記用具を設置し、その場所を訪れた人が自由に市に対する意見を記入する。
意見の件数	538件（三河田原駅前：189件、田原文化会館：122件、親子交流館（すくっと）：136件、渥美農村環境改善センター：56件、赤羽根市民センター：35件）

三河田原駅前



田原文化会館



親子交流館(すくっと)



渥美農村環境改善センター



赤羽根市民センター



(2)主な意見

意見が多かったものをカテゴリで分類すると、次のようになります。(意見のうち、個人の希望や学校での出来事といった、まちづくりと関係が薄いもの 86 件については除外しています。)

最も多かったものは、「飲食・衣類・雑貨等、買い物できる場がほしい」というもので、大手チェーン店の出店を希望する意見が多くあげられています。「レジャー・遊び場がほしい」とともに、若い世代からの意見が多数を占めていることが想定されます。

次いで多かったものは「子育て・教育」に関する意見であり、未就学児の子育て支援から大学進学等にわたる支援まで、幅広く意見があげられています。また、「公共交通」に関する意見では主に通学に利用するためのバスの本数や運賃に関する意見が多くあげられました。

■意見の分類一覧

区分	ご意見(抜粋)
飲食・衣類・雑貨等、買い物できる場がほしい (105 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・スターバックスコーヒー、ユニクロ、100 円ショップがほしい。 ・ショッピングセンターがほしい。 ・飲食できる場所が増えてほしい。 <p style="text-align: right;">他</p>
レジャー・遊び場がほしい (57 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームセンター、遊園地、映画館、水族館等がほしい。 ・子どもがあそぶ場所がほしい。 <p style="text-align: right;">他</p>
子育て・教育 (48 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを気軽に預けられる場所をもっと増やしてほしいです。 ・高校生の渥美線の定期の補助があると助かります ・学びたい子どもたちへの支援をお願いします。高校・大学・専門学校など。 ・子育て環境に力を入れてほしいです。住みやすい、子育てしやすい田原市になるように ・ベビー用品や子どもの用品や服が買えるところをつくってほしい。 ・放課後子ども教室（児童クラブ）の開いている時間を保育園に合わせしてほしい。小1の壁をなくして。 ・図書館以外で勉強できるスペースがあったら学生にとってありがたい。 <p style="text-align: right;">他</p>
公共交通 (45 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・支線のバスの時間を増やしてほしい。遊びに行くのに不便（できれば運賃も安く）。 ・通学しづらい。バスもっと欲しいです。 ・半島のどこに住んでいても高校にかかるバス代は上限があるといい。 ・自家用車がなくても行動範囲が広がる交通手段がほしいです。 ・コミュニティバスやタクシーの活用で通学や通院の送迎がいらぬようにしてほしい。 ・渥美線やバスの金額を見直してください。 <p style="text-align: right;">他</p>

区分	ご意見(抜粋)
公園 (32件)	<ul style="list-style-type: none"> ・キレイな公園がほしい。 ・公園の遊具を充実させてほしい。 ・老人も若人も子どもみんな遊べる公園（豊橋の幸公園のような）がほしい。 ・小さい子から大きい子まで楽しめる遊具がある公園がほしい。 <p style="text-align: right;">他</p>
道路・交通安全施設に関すること (25件)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路がぼこぼこで自転車が走りにくい。整備してほしい。 ・中心部以外の歩道の整備。通園・通学がもっと安全で近くの道から行けたらいいな。 ・自転車が安全に走行できる道路状況にしてほしい（歩道・自転車分離しても考えて）。 ・小中学校の帰り道が暗い、街灯がほしい。 ・高速までの道がほしい。半島道路の実現を。 <p style="text-align: right;">他</p>
観光 (23件)	<ul style="list-style-type: none"> ・田原市に行きたくくなるようなイベントを開催してほしい。 ・せっかく温泉がでたのだから、誰でも気軽に行ける温泉施設がほしい。 ・観光客の誘致のため、大規模のテーマパーク的なものも今なら可能では。温泉や花、農業による野菜を使ったグルメ、市民は割引がきいたり、無料になる公園エリアもあれば一石二鳥である。 ・観光資源を見直し、再開発とさらなるアピール。田原市以外へのアピール強化。 <p style="text-align: right;">他</p>
まちづくり全体への希望 (22件)	<ul style="list-style-type: none"> ・県外のまちから注目される田原市になってほしい。 ・若者の意見を聞いてほしい。 ・田原に帰ってきたいと思えるような環境整備を。 ・若い世代（20～40代）がいろいろな経験をすることができるまちになってほしいです。会議への参加、事業への挑戦など。 <p style="text-align: right;">他</p>
商業・工業 (17件)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺に店がない（店がわかりにくい）。駅前がたくさんお店が増えてほしい。 ・お年寄りの衣類を買うところがありません。何とかしてほしい。 ・買い物で田原市内で完結できるようにしてほしい。 ・移住者が働ける会社を誘致してほしい。 <p style="text-align: right;">他</p>
スポーツ (17件)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツができる場所（ダンス、スケート、バスケットボール、スケートボード、サッカー・フットサル等）がほしい。 ・健康づくりのためウォーキング大会を毎月実施（駅からスタート）。 ・サーフィンの街なのに、サーフ場に子ども・女性が入りづらい。トイレ、風呂、シャワー。 <p style="text-align: right;">他</p>

区分	ご意見(抜粋)
自然・環境共生 (14件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃エネルギー利活用施設をつくってほしい（入浴施設、プール等）。 ・ 自然を大切にしてほしい。年々山が太陽光パネルに変わるのがさみしいです。 ・ 汐川干潟を広くしてほしい。もっと知ってもらいたい。 ・ 白谷海浜公園、緑地はキレイだけれど浜辺にプラごみやたくさん打ち上げられている。いつのシーズンもキレイだと良い。 <p style="text-align: right;">他</p>
移住・定住の促進 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学等、遊ぶ場がないので若者はみんな田原を出て行ってしまいます。 ・ 定住者・移住者が増える政策を。宅地供給、空き家対策。 ・ 移住者でもすんなり受け入れてくれる事業者が増えてほしい。 ・ 農家とトヨタ以外の人間が正直生きにくい。介護・育児以外に職の選択がない。将来、子どもに職の選択がなく田原市を離れてしまう。 <p style="text-align: right;">他</p>
地域振興に関する こと (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤羽根地域をもっと便利に。 ・ もっと伊良湖を盛り上げてほしい。 ・ 旧渥美町にフラワーパークを復活してほしいです。 ・ 旧渥美町に文化的商業施設を作ってほしい。若者が定住せず、田原市街地に集中してしまい、旧渥美町は老人のみになってしまう。農業、介護、観光はもちろん若者が住み子育てをする上でうるおいのため、文化・商業施設は必要である。 <p style="text-align: right;">他</p>
農林漁業 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渥美の自然保全のため環境にやさしい農業への取組を期待します。 ・ 耕作をしてない畑や田んぼの有効活用をしてほしいです。農業企業を市がバックアップして畑を使ってほしい。 ・ 農家を応援するまちづくりを。 <p style="text-align: right;">他</p>
医療 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出産できる病院が渥美病院しかない。産婦人科がほしい。 ・ 総合病院を充実してほしい。 ・ 渥美地区に皮膚科と眼科の開院の誘致をぜひお願いします。30分かけて朝早くからいっても、待ち時間がとても長く小さな子どもを連れていくには大変で一日作業になります。子育てしやすいまちをつくるためには必要と思います。 <p style="text-align: right;">他</p>
福祉 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども食堂でなく、大人や高齢者、貧しい人に食堂をつくってほしい。 ・ 障がい者と交流を深めてください。楽しく、楽しく。 ・ もう少しユニバーサルデザインのを増やしてほしい。高齢者や小さい子に配慮したまちづくりを。 <p style="text-align: right;">他</p>
地域コミュニティ (5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が高齢者であふれ、地域活動ができにくくなっている。若者が町内にいないのだ。地域活動の見直しが必要であると思う。 ・ 回覧板をデジタルにしてほしい。 ・ コロナ禍、マスクに負けない地域サークルを。 <p style="text-align: right;">他</p>

区分	ご意見(抜粋)
文化・生涯学習 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的な催事があまりないので、企画してほしい。 ・図書館を大切にしてほしいです。 <p style="text-align: right;">他</p>
防災・防犯 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・津波対策を早めにしてほしいです。 ・交通事故をゼロにしたい。 <p style="text-align: right;">他</p>

3 まとめ

- WEB アンケートによれば、若者が『住みやすい』（「どちらかといえば住みやすい」と「住みやすい」の合算）と感じる割合が7割を超えています。また、将来の居留意向でも5割弱が将来田原市に暮らす意向を示しており、一定のまちへの愛着等があることがうかがえます。
- WEB アンケートでは、若者は自然環境や人の温かさ等の地域の良さを感じているものの、買い物や交通、余暇活動等で課題を感じていることがわかります。特に田原市の好きではないところで交通・買い物の不便さがあげられている一方で、将来の定住の場に求めることでは「買い物・飲食などの生活の利便性」「交通・通勤の利便性」と回答する割合が6割を超えて高くなっており、将来の若者の定住を促進するためにも課題の解消が求められます。
- 意見聴取ボードでも、主に若者を中心に、大型チェーン店の誘致、都市的な娯楽施設（遊園地や映画館、コンサート会場等）の設置等を求める意見が実現可能性等に関係なく多くあげられており、流行のものや都市的なものを求めていることがうかがえます。
- WEB アンケート、意見聴取ボードともに、公共交通に関する意見が多くあげられており、バス等の本数、運賃に関しての要望が目立っています。
- その他、意見聴取ボードにおいては、幅広い分野での意見があげられており、「子育て・教育」「公共交通」「公園整備」「道路・交通安全」「観光」等に関して市民の関心が高いことがうかがえます。

会議録の公開について(案)

1 公開の目的

審議内容を公開し、総合計画の策定状況や議論の内容を多くの市民に知っていただくことで、まちづくりや総合計画は市民にも関わりの深いものであるという意識の醸成を目的とする。

2 公開の方法

○市ホームページへの掲載

「田原市ホームページ」に、会議録を会議資料とともに掲載する。

○市役所閲覧

市役所企画課にて、会議録が閲覧できるようにする。

3 会議録の確認

公開にあたり、事務局が作成する会議録について、各委員・顧問に確認してもらうこととする。

※参考

田原市総合計画審議会運営規定(昭和 59 年 9 月 14 日訓令第 12 号)

－ 抜 粋 －

(会議録)

第9条 審議会は、会議録を備えて置かなければならない。

2 会議録には、次の各号に掲げる事項を記載しなければならない。

- (1) 開会及び閉会に関する事項
- (2) 委員等の出席及び欠席の状況
- (3) 会議に付した事件
- (4) 議事の経過の要点
- (5) その他議長において必要と認めた事項

第2次田原市総合計画の骨子(案)

資料 4

序 論	1 総合計画の策定にあたって	○新しい総合計画策定の目的について記述（・世界情勢(コロナ・エネルギー)の影響への対応 ・デジタル化の推進 ・地球温暖化対策の必要性など）
	(1) 総合計画策定の目的	
	(2) 計画の構成と期間	○総合計画の体系（基本構想・基本計画・実施計画）と計画期間について（基本計画期間：令和6年度～令和15年度）
	(3) 策定体制と策定の流れ	○総合計画の策定体制（市民・行政の検討体制）
	2 計画の前提事項	
	(1) 田原市を取り巻く社会潮流	○人口減少・少子高齢化、ライフスタイルや価値観の多様化、安心・安全に対する意識の高まり、地球規模での環境問題の深刻化、経済情勢や産業構造の変化、情報通信技術の進展、人生100年時代を見据えた誰もが活躍できる社会、持続可能なまちづくり
	(2) まちづくりのあゆみ	○田原市誕生後のまちづくりの経過
	3 田原市の現況と課題	
	(1) 田原市の現況	○「田原市の現況【令和4年度版】」から抜粋 ○市民意識の状況（「市民意識調査」結果、まちづくりに対する市民意見）
	(2) 田原市の課題	○田原市を取り巻く社会潮流や現況を踏まえ、今後の課題を示す
	4 (仮)未来シナリオ	○「まちづくり市民会議」で作成した未来シナリオ
	基本 構想	1 目指すまちの姿
(1) 将来都市像		○将来都市像は「第1次田原市総合計画」から継承するとともに、まちづくりの理念と一体化させる
(2) まちづくりの方針		○田原の強みを活かしたまちづくり ○参加と協働による持続可能なまちづくり ○連携により成長し続けるまちづくり
2 将来都市像実現のために		
(1) 将来人口		○人口減少社会を見据え、減少幅の縮小に努める方針とする。【人口指標】10年後の目標人口（令和15年度：○○○○○人）
(2) 財政見通し		○これまでの財政状況の推移と今後の見通しを示す。
(3) 観測指標		○住みやすさや幸福度について市民の実感の変化を把握する。【観測指標】住みやすさの指標、幸福度の指標（市民意識調査）
(4) 土地利用の考え方		○基本的な考え方（①個性を活かした魅力づくりと効率的で賑わいのある市街地の形成、②広域ネットワークの構築と災害への対応） ○土地利用概念図
基本 計画	1 基本計画の構成	○基本計画の構成として、分野ごとの計画と分野横断的な重点取組として設定する重点プロジェクトで構成することを示す
	2 重点プロジェクト	○人口減少社会に対応し、市民協働、公民連携、DX、GXなどに関する施策を設定
	3 施策の大綱	○分野別計画の施策の柱の概要を示す
	4 分野別計画	○市民環境分野、健康福祉分野、教育文化分野、産業経済分野、都市整備分野、消防防災分野、行財政分野の施策の方向性を示す
	5 計画推進のために	○計画の推進体制、持続可能な行財政運営、SDGsの推進について方向性を示す
資料編		○策定体制 ○策定経過 ○審議会 ○まちづくり市民会議 ○市民意見（若者等） ○庁内検討組織 ○用語説明

第2次田原市総合計画 序論・基本構想(素案)

資料5

序論

1 計画の策定にあたって

(1)総合計画策定の目的

田原市では、平成19年3月に「第1次田原市総合計画」を策定した後、平成25年3月には「改定版第1次田原市総合計画」を策定し、まちづくりを推進してきました。その間、人口減少・少子高齢化が加速するとともに、世界的な新型コロナウイルス感染症のまん延、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギーや物価への影響など、我が国を取り巻く社会・経済の動向はめまぐるしく変化しています。

これらの変化を受け、デジタル技術の急速な進化や働き方改革の推進等、人々の暮らし方や働き方に関する価値観が変わることにより、ライフスタイルの多様化や、大都市の便利な暮らしから地方での豊かな暮らしを選ぶ動きがみられます。

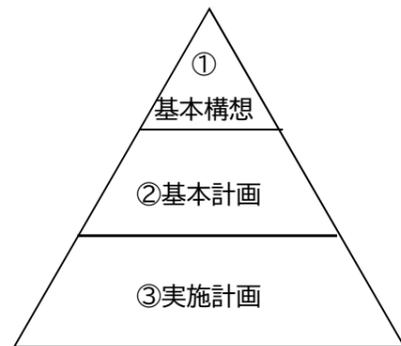
一方、「気候危機」とも言われる地球温暖化が進むなか、国は「2050年カーボンニュートラル」を宣言しており、達成に向けて再生可能エネルギーの活用等、脱炭素社会の実現に向けた取組が求められており、今後、温室効果ガスの排出量削減に向けた取組が重要です。

こうした社会・経済情勢の変化に対応しつつ、持続可能な地域社会の実現を目指し、中長期的な視点から総合的かつ計画的にまちづくりを進めていくため、新たな時代を見据えた市政運営の基本的な計画として、第2次田原市総合計画を策定します。

(2)計画の構成と期間

■計画の構成

総合計画は「基本構想」「基本計画」及び「実施計画」で構成します。



①**基本構想**：「目指すまちの姿」とその実現に向けて必要なまちづくりの指針

※**行政のみならず、市民や事業者、団体など多様な主体で目指すべき将来像**

②**基本計画**：基本構想に定めた将来像や基本的施策等を実現するため令和6年度～令和15年度までの間に実施する「各分野の施策の方向性」

③**実施計画**：基本計画に定めた各分野施策を実現するために、ローリング方式で策定する向こう3か年実施する具体的な事業

※②③は行政が実施すべきもの

■計画の期間

・基本構想は、令和15年度を目標に、本市が目指す都市の姿とその実現のための視点を示します。

・基本計画は、基本構想で定めた将来像を実現するため、10年間に実施する施策等を示します。

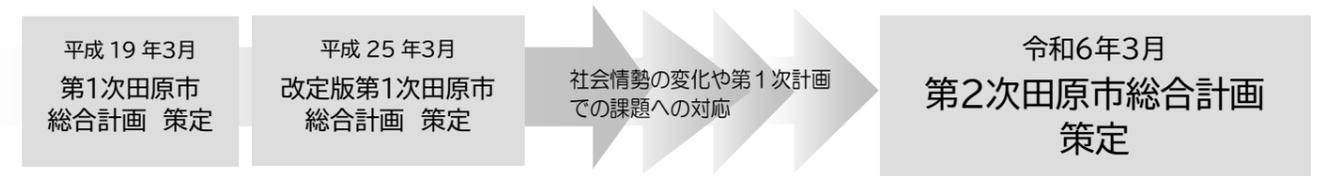
・実施計画は、基本計画に定めた施策を実現するため、毎年度、向こう3か年に実施すべき事業の方針をローリング方式で示します。

年度	令和6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
基本構想	[Shaded area]									
基本計画	[Shaded area]									
実施計画	[Diagram showing rolling 3-year implementation periods with arrows]									

(3)策定体制と策定の流れ

将来都市像の実現のためには、市民の参加と協働が不可欠となることから、策定においてはできる限り多くの市民参加を得ながら取り組むものとします。

■策定の流れ



■策定体制

○市民等による検討体制

- ・田原市総合計画審議会
- ・まちづくり市民会議
- ・地域コミュニティ連合会
- ・田原市議会特別委員会
- ・パブリックコメント 等

○行政における内部検討体制

- ・田原市総合計画庁内策定会議
- ・田原市総合計画庁内策定会議幹事会
- ・田原市総合計画戦略部会 等

2 計画の前提事項

(1)田原市を取り巻く社会潮流

①人口減少・少子高齢化社会の本格的な到来

日本全体が本格的な人口減少社会を迎える中、全国的に地方から首都圏への人口流出が進み、地方におけるその影響は、消費・経済活動の停滞や税収の減少、地域コミュニティの担い手不足、医療や教育環境の悪化など、多岐にわたり深刻なものとなっています。

今後は、成熟社会における人口減少・少子高齢化社会という、誰も経験したことのない状況下において、次世代を担うひとづくりのほか、首都圏への一極集中の流れを変える必要があります。将来にわたる活力のある地域づくりに向け、若者にとって魅力ある仕事づくりや様々な地域資源を生かした交流人口の拡大に向けた取組がますます重要となってきます。

②ライフスタイルや価値観の多様化

人口減少とは対照的に、世帯数は横ばいとなっており、平均世帯人員は減少傾向が続いています。単身世帯や核家族世帯の増加といった世帯構成の変化、ライフスタイルや結婚、就労に対する価値観の多様化などから、地域社会における人と人とのつながりが希薄化し、地域コミュニティの機能低下が懸念されています。

地域が主体となって課題解決に取り組めるよう地域のつながりを深めていくとともに、行政をはじめ、市民、市民活動団体、大学、企業などの様々な団体がこれまで以上に連携していくことが求められています。

③安心・安全に対する意識の高まり

平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震など大規模な震災が発生しており、人的・経済的に甚大な被害をもたらしているほか、近年では、全国各地で局地的な集中豪雨による被害が頻発しています。

また、令和元年に発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界に広がり、人命が脅かされるだけでなく、暮らしや地域経済に深刻な影響を及ぼし、未だ終息が見通せない状況となっています。

加えて、高齢者などを狙った詐欺事件やインターネットによる犯罪、生活に身近な交通安全や健康、食の安全など、社会環境が変化する中で日常生活におけるリスクは拡大し、複雑化しており、地域レベルでの防災・防犯、医療、安心・安全に対する意識はこれまで以上に高まっています。

④地球規模での環境問題の深刻化

地球規模での温暖化の進行による気候変動や海面上昇をはじめ、生物多様性の損失などの地球環境問題は、人類のみならず地球上の生物すべてに危機的な状況を生じさせています。

国は、2050年カーボンニュートラルを宣言するとともに、グリーン成長戦略を策定し、脱炭素化をきっかけとした産業構造の抜本的な転換により、温室効果ガスの排出削減を実現しつつ、次なる大きな成長へとつなげていく取組を推進していくこととしています。

今後、次世代エネルギーの導入など脱炭素社会に向けた取組を進めるとともに、市民・関係団体・企業・行政などの主体それぞれが、環境保全意識を高め、環境への負荷を低減する循環型社会の形成を図り、将来の世代に豊かな環境の恵みを継承していくことが求められています。

⑤経済情勢や産業構造の変化

人口減少等に伴う国内市場の縮小が懸念されており、消費の減少に伴う経済の冷え込みや労働人口の減少による人員不足を補うため、外国人労働者の雇用の増加、生産拠点の海外移転の加速など、国内と海外の経済市場の関わりが一層強くなることが予測されます。

また、電子商取引の普及などによる産業構造・就業構造の変革、さらにはIoTやAIなどの研究開発や実用化が進むなど、これまで十分には予期できていなかったスピードで技術革新が進むなど、経済を取り巻く環境は日々複雑化・高度化しているため、行政と地域の企業・団体等が連携を図ることにより、急速なグローバル化や技術革新に対応した産業構造への転換や再構築に向けた取組が求められています。

⑥情報通信技術の進展

高度情報通信技術の急速な発達により、インターネットや携帯電話は家庭や職場など、社会全体に普及しています。それらの技術は、日常的な意思伝達はもとより、各機関における手続きの電子化や物流・医療・福祉・教育などのあらゆる分野で活用されており、ICTは生活になくてはならない存在となっています。

一方で、情報にアクセスできる人とできない人の間に情報格差が生じていることや個人情報の漏洩などの問題も発生しています。

今後は、市民に対する日常生活や災害に関する情報提供をはじめ、人口減少社会における様々な地域課題の解決や行政サービスを効率的に提供する手段として、IoT、AI、ビッグデータ等の積極的な活用が期待されています。

あわせて、誰もが情報通信サービスを享受できる情報バリアフリー社会の実現や情報セキュリティの確保、個人情報の保護などへの対応が求められています。

⑦人生100年時代を見据えた誰もが活躍できる社会

人生100年時代を迎え、これまでの教育・仕事・老後というライフステージから、どの年代においても雇用や教育の場が整い、女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが生涯にわたって活躍できる社会の実現が必要とされており、人生100年をどう生きるか、多様な生き方を受け入れる社会の構築が求められています。

また、生涯にわたり活躍できる安心の基盤は「健康」であることから、高齢者のみならず全ての世代を対象に、文化活動やスポーツ、地域の活動など、様々な観点から未病対策・健康づくりに取り組んでいくことも必要です。

⑧持続可能なまちづくり

国の財政状況は、少子高齢化の進展によって税収が伸び悩む一方で、社会保障関連経費は増加を続けています。また、社会資本に目を向けると、高度経済成長期に整備したものが多く、完成から50年以上経過する老朽化施設・インフラが急増し、一斉に更新時期を迎えることから、将来の修繕や更新にかかる費用が財政の大きな負担となることが懸念されています。

地方自治体には、ふるさと納税などの地域の強みを生かした自主財源の確保に取り組むほか、必要なインフラ機能を維持するため、適切な維持管理に努めるとともに施設の統廃合を検討するなど、人口減少社会を見据え、限られた財源の中で持続可能な行政サービスを提供することが求められます。

このほか、世界経済、気候変動、感染症、紛争などの地球規模の課題や貧困、格差などの社会問題に対して、経済・社会・環境の三側面から統合的に取り組み、持続可能な世界の実現を目指す SDGs (Sustainable Development Goals)の推進は、現在のグローバル社会の下で重要なものとなっており、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、行政をはじめ、地域、企業、個人が一体となって持続可能なまちづくりを目指すことが求められています。

(2)まちづくりのあゆみ

地方分権改革による「平成の大合併」のなか、住民の行動圏や生活圏に対応した総合的なまちづくりを推進する必要から、愛知県内で最初の合併として平成15年8月20日に田原町が赤羽根町を編入すると同時に市制施行し、「田原市」が誕生しました。

さらに、平成17年10月1日、渥美町を編入する二度目の合併により、現在の田原市となっています。

現在の田原市としての総合計画は、合併時の新市建設計画の内容を包含し、平成19年3月に「第1次田原市総合計画」を策定しました。

その後、平成20年4月には、「田原市市民協働まちづくり条例」を制定し、平成23年度から現在の「田原市地域コミュニティ協議会連合会」が設置されました。

平成25年3月には、「改定版第1次田原市総合計画」を策定し、協働、安心・安全、人材育成、地域活力創出、賑わいの市街地づくり、環境との共生、持続可能な行財政といった7つの重点プロジェクトを設定して、まちづくりを推進してきました。

3 田原市の現況と課題

(1)田原市の現況

※以下の各項目の内容については、「田原市の現況(令和4年度版)」から抜粋して作成します。

①概況

②人口・世帯

③市民環境

④健康福祉

⑤教育文化

⑥産業経済

⑦都市整備

⑧消防防災

⑨行財政

⑩市民意識の状況

- ・「市民意識調査」結果
- ・まちづくりに対する市民意見(「若者 WEB アンケート」、「意見聴取ボード」)

(2)田原市の課題

新たな総合計画の策定にあたって、田原市が踏まえるべき課題は、以下のとおりです。

※現時点の想定であり、今後追加する可能性があります。

人口・世帯

- 想定を超える人口減に対応するまちづくり
- 少子高齢化と生産年齢人口の減少への対策
- 世帯の小規模化や高齢世帯の増加に対応する地域福祉等の充実

健康福祉

- 地域共生社会の実現
- 医師確保など地域医療体制の維持
- 子育て環境の充実
- 健康寿命の延伸

市民環境

- 「たはらゼロカーボンシティ」に向けた取組
- 自然や景観の保全
- 防犯・交通安全の推進
- 地域コミュニティの担い手不足
- 魅力あるコミュニティづくりや地域の活性化

教育文化

- 学校での学びの環境の充実
- 学校部活動の地域移行
- 恵まれた歴史・伝統文化の継承
- 誰もが教養、文化、スポーツに親しめる環境づくり

産業経済

- 日本トップクラスの農業産出地域の維持
- 農業・漁業・商業の担い手の確保
- 新たな企業誘致と雇用創出
- 自然、食、スポーツなど魅力的な観光資源の効果的な活用

都市整備

- 市民の生活やまちの賑わいにつながる公共交通の維持・充実
- 国の構想路線に位置付けられた渥美半島道路の早期整備促進
- 定住・移住につながる居住環境の整備
- 市街地の再整備・活性化

消防防災

- 南海トラフ地震や局地的な集中豪雨へ備えなど、継続的な災害対策の充実
- 消防団の担い手の確保

行財政

- 厳しい財政状況への対応
- 老朽化した公共施設の適正化推進
- 広域連携や民間活力による、より効果的で効率的な行政運営
- シティセールス活動によるブランド力の向上

分野横断的課題

- デジタル化の推進による、市民生活の支援、産業の振興、広い市域をカバーする行政サービスの推進
- SDGsや well-being の理念に基づく、経済・環境・社会の面から「誰一人取り残さない」社会の形成
- 市民・民間事業者・研究機関・他自治体等、多様な主体との連携・協働による、創意工夫によるまちづくり

4 (仮)未来シナリオ

※今後、まちづくり市民会議で部会ごとに作成する未来のシナリオとイメージイラストを掲載する予定です。

基本構想

これまでの総合計画の考え方を継承し、都市の姿(まちづくり)と市民が実感する姿の両面を目指すまちの姿として示し、物質的・精神的に豊かなまちづくりを目指します。

なお、社会経済情勢の変化や田原市の実状を勘案し、主に都市将来指標(人口フレーム)について内容の見直しを図ります。

1 目指すまちの姿

(1)将来都市像

うるおいと活力のあるガーデンシティ
～みんなが幸せを実現できるまち～

将来都市像に込めた思い

海と緑に包まれた渥美半島で、活発な産業と豊かな暮らしが共存する、美しく誇りあふれる田園都市の実現を目指します。

時代が変わっていく中であっても、誰もが幸せを実現することができる環境をつくるため、市民や事業者、団体、行政などが連携し、まちづくりに取り組んでいきます。

(2)まちづくりの方針

田原市の行政運営の基本的な考え方である「まちづくりの方針」は、以下の3点とします。

① 田原の強みを活かしたまちづくり

半島ならではの豊かな自然環境や全国有数の産出額を誇る農業、豊富な水産資源、臨海部の工業など、本市の強みを最大限に引き出すとともに、本市固有の魅力を活用し、まちに対する誇りや郷土愛を育みます。

② 参加と協働による持続可能なまちづくり

市民・地域・団体・事業者など多様な主体の参加と協働のもと、それぞれを理解し合い、役割を果たすことで、あらゆる分野の振興を図り、豊かさと暮らしやすさを次の世代へと引き継ぎます。

③ 連携により成長し続けるまちづくり

市場性が見込まれる行政サービスについて民間活力の導入を図るとともに、産・学・官や広域にわたる地域間連携などの多様な主体との連携を継続し、利便性と効率性の高い行政基盤を構築します。

また、将来都市像の実現に向けて、柱となる7つの分野を次のように設定します。

※各分野の詳細な内容については、今後の検討状況を踏まえ、変更になる可能性があります

分野	内容
1 市民環境分野	地域コミュニティ振興、男女共同参画、地域防犯・交通安全、環境保全、資源循環 など
2 健康福祉分野	健康づくり、医療、地域福祉、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、社会保障 など
3 教育文化分野	学校教育、生涯学習、スポーツ振興、芸術文化振興、青少年の健全育成 など
4 産業経済分野	農業振興、水産業振興、工業振興、商業振興、観光振興、労働・消費対策 など
5 都市整備分野	交通、港湾、河川、海岸、市街地、住環境、上下水道、自然環境、緑と景観 など
6 消防防災分野	消防・救急体制、防災・減災体制 など
7 行財政分野	行財政改革、組織運営、広域連携 など

2 将来都市像実現のために

(1)将来人口

今後も、全国的に人口減少が進行することが予測されており、本市においても他の自治体と同様に人口減少は避けられないと考えています。

しかしながら、本市は臨海工業用地や農業・観光等の地域産業を有することから、これら産業の活性化や未来を担う若年層の居住誘導、さらには少子化対策など、各分野の戦略的な取組等により、人口の減少に可能な限り歯止めをかけ、まちの活力を維持することとし、本市の将来人口の方向性・目標を以下のとおり設定します。

■方向性：人口減少社会を見据え、減少幅の縮小に努めます。

■目標人口：〇〇,〇〇〇人(令和15年度)

※国勢調査に基づく国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の人口推計が、近々公表される見込みとなっており、この推計値を踏まえ、今後、目標人口を設定する予定です。

(2)財政見通し

これまでの財政状況の推移と今後の長期見通しを、グラフも交えて記載します。

(3)観測指標

市民視点の指標として、『住みやすさ』、『市民幸福度』を観測指標として設定し、まちづくりの推進による実感度の変化を把握します。

※市民の住みやすさ(「田原市市民意識調査」)

年度	「住みやすい」・「どちらかといえば住みやすい」の割合
平成25年度	86.9%
平成28年度	84.0%
令和元年度	83.3%
令和4年度	84.4%

※市民の幸福感(「田原市市民意識調査」)

年度	幸福感の平均点 (10点満点)
平成25年度	6.93点
平成28年度	6.84点
令和元年度	6.95点
令和4年度	6.71点

(4)土地利用の考え方

本市の地理的特徴や都市を構成する要素を踏まえ、将来都市像の実現に向けた基本的な考え方と概念図を表すものです。

●基本的な考え方

①個性を活かした魅力づくりと効率的で賑わいのある市街地の形成

半島という特殊性による本市の美しい自然や花や緑、街並みなどの景観を活かした魅力づくりを市民・事業者・行政の協働により進めます。

また、広い行政面積を有するため、地域の特性を活かして機能分担と連携を図るとともに、既存の都市基盤を活用しながら都市機能を集約した効率的で賑わいのある市街地の形成を目指します。

②広域ネットワークの構築と災害への対応

伊勢地域や三遠南信地域を結ぶ本市の機能・役割の強化を図るため、計画中の「浜松湖西豊橋道路」や「渥美半島道路」の整備を促進します。

また、発生が危惧される南海トラフ巨大地震やこれに伴う津波のほか、台風、集中豪雨などの大規模な災害の発生に備え、地域の特性に応じた防災基盤・防災体制の強化や交通ネットワークの多重化など、災害に強いまちづくりを進めます。

●土地利用概念図

※現計画の概念図です。

今後、新たに計画中の「浜松湖西豊橋道路」や「渥美半島道路」の追加などを精査していきます。

